



笠野 真喜議員

SDGsの取り組みその後は

笠野議員

SDGsの取り組みで誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村はどう変わったのか。令和4年6月議会にて、政策企画課長が南阿蘇村まち・ひと・しごと創生推進計画に基づき、経済面・環境面・社会面とあらゆる分野でSDGsの持続可能包括的17ゴールに向け、取り組んでいくと答えている。(令和4年5月20日SDGs未来都市選定)

- ①環境、自然環境の保全と活用
- ②活力、地域特性を生かした農林業の振興・ともに学び育て合う未来の人づくり
- ③暮らし、安心安全で幸せを感じる村づくり、便利で住みやすい定住の村づくり、暮らしを支える行政運営の推進 と答弁されている。目標設定は来年2025年度だが、達成度は？

全庁一丸となり進めていく

村 長

南阿蘇村では、第2次南阿蘇村総合計画の中で、環境・活力・暮らしの項目で30項目の施策目標を掲げ、村はそれに向けてSDGsの取り組みを行っている。

主な点だけ説明すると

- ①地下水の保全と再生可能エネルギーの導入
令和3年度に地下水保全条例を改正して、県内でも最も厳しい、取水規制を導入している。今年度から、梅雨時期の雨水湛水事業に取り組んでいる。草原は地下水涵養能力にすぐれているので草原の維持につながる野焼きや放牧など継続的に、施策を進めている。
再生可能エネルギーの導入は、令和3年度に久木野地区で小水力発電を開始している。令和5年3月には湯の谷地熱発電が2000kW約4000戸を賄う発電を始めている。さらにもう一つの地熱開発を進めている。旧立野小学校にある、リアムウィ

ンド方式大型風車、約500kW分2基の導入を実施に向けて検討している。

②活力の取組み

農業振興は、農業の持続的発展を図るため、経営発展に必要な施策や機械導入を支援している。生産部会への助成、収入保険料の助成、など農業経営の負担軽減を図っている。担い手の育成を目的に農業研修生受け入れ、研修時の経済的支援を行い、担い手の確保に努めている。

草原の維持のためには、牧柵や水飲み場の設置補助、ダニ駆除剤の助成を実施し、放牧頭数を増やす取り組みを進めている。また放牧環境改善事業では、放牧牛監視システムの実証実験を令和5年度二牧野組合に実施し、今後も関係機関と協力して導入検討を進めていきたい。

③暮らし

定住移住推進事業で第2次南阿蘇村総合計画で空き家空き地バンク計画の10件から15件に増やす目標だが、現状、空き家登録件数が19件、16件が契約済み、3件が契約可能物件である、8月から空き家等実態調査を行い、村内の空き家の現状を把握して、所有者等に登録を促し、登録件数を増やしていきたい。

4月に経済界有志らで人口戦略会議、地方自治体持続可能分析レポートにて南阿蘇村はマイナス5.9%で自立可能性自治体と評価を受けている。移住につながる戸建て住宅政策、定住につながる農業担い手の支援、恵まれた自然を生かした、環境政策、子育て世帯への支援、今後もSDGsの達成に向けた取り組みを全庁一丸となり進めていく。

